慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

慶應義塾新執行部が発足

2025年5月27日付で伊藤公平現塾長の再任が正式に決定し、執行部業務の多様化、高度化に伴って常任理事はこれまでの10名体制から12名（現学部長、現研究科委員長で後日就任予定の2名を含む）に増員されました。また、今回大学の業務全体の統括や調整を補佐する役割を担う副学長職が新設され、医療関連を統括する副学長として北川雄光常任理事、教育・研究を統括する副学長として岩谷十郎常任理事の2名が塾長により任命されました。さらに、常任理事を補佐し、その職責遂行を助けるため副理事を設置できることとなり、今後学内外の有識者、専門家も含めて適宜副理事が任命され、慶應義塾執行部の体制強化が図られる予定です。

塾長

※塾長、常任理事のプロフィール詳細は慶應義塾公式ウェブサイト（QRコード）をご確認下さい。

伊藤　公平（いとう　こうへい）
1965年生まれ。1989年理工学部卒業。1994年米・カリフォルニア大学バークレー校博士課程修了。Ph.D.。理工学部教授。2021年慶應義塾塾長。

常任理事と担当業務

北川　雄光（きたがわ　ゆうこう）
医学部教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】副学長（医療）、大学病院、病院経営改革、リスク管理（共管）、信濃町キャンパス、芝共立キャンパス、湘南藤沢キャンパス（共管）

岩谷　十郎（いわたに　じゅうろう）
法学部教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】副学長（教育・研究）、点検・評価、企画、IR、三田キャンパス

松浦　良充（まつうら　よしみつ）
名誉教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】教育、入試、研究（共管）

山内　慶太（やまうち　けいた）
看護医療学部・健康マネジメント研究科教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】一貫教育校、リスク管理（共管）

岡田　英史（おかだ　えいじ）
理工学部教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】人事・労務、情報基盤（IT）、研究（共管）、学生（共管）

土屋　大洋（つちや　もとひろ）
政策・メディア研究科教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】国際、教育（共管）、研究（共管）、湘南藤沢キャンパス

奥田　暁代（おくだ　あきよ）
法学部教授。2021年慶應義塾常任理事。
【担当】学生、体育会、教育（共管）、協生環境推進（共管）、日吉キャンパス

駒形　哲哉（こまがた　てつや）
経済学部教授。2025年慶應義塾常任理事。
【担当】塾員、施設・管理、調達会計、募金（共管）、リスク管理（共管）、危機管理（共管）
＊2025年7月15日就任予定（就任までは岡田英史常任理事が代行）

横田　絵理（よこた　えり）
商学部教授。2025年慶應義塾常任理事。
【担当】広報、社会・地域連携、SDGs、協生環境推進、財務（共管）
＊2025年9月16日就任予定（就任までは奥田暁代常任理事が代行）

斎木　敏治（さいき　としはる）
理工学部教授。2025年慶應義塾常任理事。
【担当】研究、起業家教育・支援、教育（共管）、矢上キャンパス

北澤　安紀（きたざわ　あき）
法学部教授。2025年慶應義塾常任理事。
【担当】総務、法務、個人情報保護、リスク管理、危機管理

川﨑　達生（かわさき　たつお）
ユニゾン・キャピタル株式会社代表取締役。2025年慶應義塾常任理事。
【担当】財務、募金、病院経営改革（共管）、情報基盤（IT）（共管）

第94回北里記念式開催

6月12日に、信濃町キャンパス北里講堂において第94回北里記念式が行われました。医学部ならびに三四会（医学部同窓会）では、初代医学部長・病院長である北里柴三郎博士の6月13日のご命日に際し、その偉業を長く記念すべく、北里記念式を行っています。

北里柴三郎博士は明治25年に福澤先生の援助により芝公園に伝染病研究所を創設しました。福澤先生の志に報いるため、初代医学部長として就任し、現在の医学部および大学病院の礎を築きました。

記念式では、伊藤公平塾長（欠席のため北川雄光常任理事が代読）、金井隆典医学部長、武田純三三四会長、北里家代表の北里英郎氏の挨拶に続き、三四会賞（北里賞・北島賞）の授賞式が行われました。また、学校法人北里研究所から、浅利靖理事長はじめ多くの来賓のご臨席を賜りました。

三四会による北里賞は、北里柴三郎博士の偉業を記念して、昭和26年に始まりました。昭和33年からは第二代医学部長北島多一博士を記念した北島賞も加わりました。北里賞（基礎研究、および臨床への発展研究における優れた業績に対して授与される）、北島賞（臨床医学、および臨床研究における優れた業績に対して授与される）は、医学部における権威ある学術賞であり、国際的にも評価される業績が選ばれています。

今年度の北里賞、北島賞の受賞者は上記のとおりです。授賞式後には、受賞者による講演が行われました。参加者は、先進的な医学研究成果の発表に熱心に耳を傾けていました。

受賞者との記念撮影　撮影：竹松明季

【受賞者講演】

北里賞　慶應義塾大学医学部内科学（消化器）准教授　**三上　洋平（85回）**
「マルチオミックス解析を用いた臓器間ネットワークと腸管恒常性維持機構の解明」

北島賞　産業医科大学医学部第2内科学教授　**片岡　雅晴（81回）**
「難病循環器疾患における低侵襲治療開発と個別化医療の構築」

北島賞　慶應義塾大学医学部内科学（呼吸器）准教授　**安田　浩之（80回）**
「肺癌領域における基礎・臨床融合研究プラットフォームの構築と肺癌生物学の分子理解」

北川雄光常任理事による塾長ご挨拶の代読

北里家　北里英郎様によるご挨拶

第1回 Keio Outstanding English Communication Award（KOECA）表彰式

Keio Outstanding English Communication Award（KOECA）は、三四会である菅沼安嬉子先生（内47回）のご寄付により設立されました。本賞は、最前線で患者対応にあたるメディカルスタッフの英語力向上を促進し、海外からの患者へのサービスの質を高めるとともに、スタッフのモチベーション向上を目的としています。

応募資格は、患者対応を業務とする専任のメディカルスタッフ職です。対象となる英語資格および基準は、TOEIC740点以上、実用英語技能検定（英検）準1級以上、日本医学英語検定試験応用級（3級）以上とされています。

2025年2月20日（木）に第1回表彰式が開催され、看護師13名の受賞者に対して、賞状および特別バッジが授与されました。胸元につけるこの特別バッジのデザインは、病院職員および看護医療学部の学生から公募され、51作品がエントリーされました。その中から、菅沼先生をはじめ、北川理事、病院長らによる選考を経て、デザイン賞は看護師の伏見幸弘さんの作品に決定しました。

表彰式では、菅沼安嬉子先生より、この賞に込めた想いや期待が受賞者一人ひとりに直接伝えられ、受賞者たちは、自らの今後の役割に希望を感じる、明るい表情を浮かべていました。

（看護部長　加藤恵里子）

副学長・常任理事を拝命して

北川　雄光（外科学65回）

この度、医療分野を統括する副学長・常任理事を拝命致しましたこと、身に余る光栄と存じます。これまでともに歩んでくださった教職員の皆様、多大なるご支援を下さった三四会員の皆様をはじめとするすべての慶應義塾社中の皆様に感謝の意を表したく存じます。

私自身が担当する医療の分野は今、最も緊迫した状況となっています。本塾は最先端の医看薬学の発展に貢献しながら、慶應義塾大学病院において高度で安全な医療を提供しつつ、未来型予防医療や臨床研究推進など独自の分野を展開して経営面においても堅調な運営をしてきました。しかし、医療を取り巻く環境が一層厳しくなる中で今後の動向は決して楽観できません。慶應義塾全体の事業規模の約半分を占める医療財政の安定的成長は、慶應義塾の恒常的な発展においても不可欠です。

医学部においては、理工学部、薬学部と連携して獲得した世界トップレベル研究拠点Bio2Qや全塾的なプロジェクトである地域中核・特色のある研究大学強化促進事業J-PEAKSをはじめとする大型研究活動を推進しながら、医療系三学部合同教育を含む全人的教育体制の充実が図られてきました。これだけ厳しい医療環境の中で、学術的実績を挙げながら医学部・病院ともに過去4年間連続黒字決算を達成できましたのは、天谷雅行前常任理事、金井隆典医学部長、松本守雄病院長をはじめ、医学部・病院執行部、信濃町教職員すべての皆様のご尽力の賜物であり、何より教育・研究・診療現場の第一線で働く若手医療者、教職員、研究者の皆様の功績です。2024年度には医療収入のうち年間約5億円相当分を若手医師とメディカル職員の処遇改善に充当しましたが、今後もこうした若手・中堅教職員の処遇改善と同時に医療DXを駆使した労働環境の整備に注力して参ります。急速な人口減少の中で、中長期的には医療需要が減少していくことが予想される中、さまざまな新規プロジェクトに取り組みながら「慶應の医療圏」を世界へと広げて参りたいと存じます。

近年、研究力低下が課題となっている本邦において、研究者や若手医療者が学術研究、診療能力の向上、慶應義塾ならではの異分野との交流などに安心して没頭できる環境、多彩なキャリアパスを構築し、大学およびその関連施設に優秀な人材が自ら望んで集結する体制を築きたいと考えています。新しい時代に求められる真の幸福のあり方、身体的な健康だけでなく精神的、社会的なウェルビーイングとは何かを見極め、AI技術が浸透した新しい社会を先導するために医療・理工系に留まらず慶應義塾が誇る人文科学・社会科学系の叡智を結集し、持続可能な「慶應医療のグランドデザイン」を皆様とともに描いて参りますので、引き続きご指導ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

常任理事に就任して

山内　慶太（70回）

私が引き続き担当する一貫教育校は九校あります。その特色は「同一の中の多様」という言葉で説明されて来ました。各校はその来歴と教職員諸氏の創意工夫の蓄積によって、個性ある教育を展開して来ました。一貫教育の課程で学ぶ塾生一人一人は、その個性ある各校で、自らの個性を育みます。そして、大学に至るまで次の段階に進む度に、新たな仲間と混じり合い、いわば化学反応を起こす中で、その多様な個性がより豊かなものになっていきます。この「多様」は大切にし続けたいものです。

同時に、周囲の環境が変わり新たな課題への対応も求められる中では、改めて「同一」の意義を再確認する必要があります。今日に至る一貫教育の課程が確立した時に、福澤先生はその意義を語りました。そこに「同一」の鍵があります。

一期目の最初はコロナ禍への対応ではじまりました。発達段階で育むべき資質を涵養するために、授業だけでなく部活動や宿泊行事等、如何に学校に日常を取り戻すかが最初の課題でした。その中で、校医諸氏、保健管理センター、医学部、病院、そして三四会の御協力の有難さを実感する機会が多くありました。これからもお世話になると思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

鑑賞知来

近年「医療DX」という言葉を耳にする機会が増えている。DX（Digital Transformation）は、デジタル技術を活用して、業務や組織を変革することである。現在、ITやAI技術が多く開発されているにも関わらず、医療現場に実装された事例はまだ少ない。当院は2018年から北川雄光先生を責任者として内閣府のAIホスピタルプロジェクトに参画し、筆者が副病院長として院内医療DXの推進を担当してきた。

DX推進で重視したのは、組織体制の構築と対象課題の選定である。まず、DXの対象が院内の多岐に渡るため、迅速な意思決定が可能な少人数の中枢組織を設けると共に、各診療科でAI担当者を決めて頂き、病院全体で進捗を共有できる、裾野の広い体制にした。情報共有のために医療DX推進委員会を2か月に一度WEB開催しているが、毎回100名近くが参加している。

次に課題の選定では、研究開発者が興味の対象と考えがちな専門的な高度な業務よりも、まず共通基盤となる普遍的な院内業務のデジタル化を優先した。例えば、デジタル問診、説明用動画、ペーパーレス化、コマンドセンター、スマートベッドなど、数多くの取り組みがある。また、将来の労働力不足に備えて、自動車いすや、物品搬送、薬剤ピッキングなどのロボットを導入している。

このように基盤的なことで幅広くDXを実装している施設は世界的にもあまり無いようで、月に2、3組、国内の病院幹部、政府省庁関係者に加え、アジアや欧米からも見学に来られている。現在は生成AIの活用による文章作成などの効率化を行っているが、今年はAIエージェントの導入を予定している。

医療DXは、開発者の興味という視点ではなく、現場で受け入れやすいものは何か、そのために必要な体制は何かという実装学的視点から捉える必要があると考えており、実装学の構築の重要性も感じている。今後も、当院が医療DXの先導役を担い、これらの取り組みが国内外に広がっていくことに尽力したい。

（副病院長／放射線科（診断）教授　陣崎雅弘　66回）